

## みとおし

# 今月の畜産物市況

## —牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏—

### 当分は続落 牛枝肉

大阪市場へのト殺用牛の出回りは、引続き昨年同期を2～3割方上回っている。しかも良品が少ない傾向である。4月相場はヌキ中値で、昨年をわずかに上回るkg当り 360 円前後の弱含みで推移してきた。これに対して、メス、オスの中値が昨年よりやや安く、メスとヌキの中値、安値にはほとんど差が見られないのが、このところの相場の特徴的な傾向としてみられる。これは気温の上昇とともに野菜、魚の消費が伸びることと、暑くなるとスキヤキよりテキのほう好まれるようになるためであろう。そのうえ、豚肉の値下りに歩調を合わせている点もみられる。

5月に入ってもやはり消費の伸びはそう期待出来ず、またその材料もないので、4月からの弱含みが続くであろう。6月に入れば、農繁期を迎えての入荷頭数の減少、ことにスソ物の入荷減なども考えられ、また豚肉加工シーズンによる肉豚価格の上向きとともに時期的にやや高値が見込まれる。しかしあまり期待は持てないだろう。

### さらに横バイ 豚枝肉

3月に入りやや持直した豚枝肉相場は、3月中旬以降再び軟化し、4月一っぱいジリ安の経過を辿り、中値kg当り 280 円程度まで下げた。5月に入ってもあまり期待出来ないが、小売価格の値下りによる消費の反発、加工用肉の増加、それに今より多くの入荷も考えられないので、次第に強含みに移り、300 円前後からやや上向き始めるのではないだろうか。

このほど農林省で公表した、この2月1日現在の全国の豚の飼育、生産統計によれば、昨年12月の調査時に比べ、総頭数で1%増、生後1～3ヵ月の子豚では18%増で、12月を境に全国的に生産がかなり上向いてきているようである。

これらの子豚は今後6月から8月にかけて肉豚として市場出回りが考えられるが、7月以降食肉加工

シーズンに入り大手業者の手当買いも見込まれ、この程度の供給増加では1段消費増加見通しとともに需要が上回り、8月迄はかなり強気の見通しが強い。

### 5月には少し反発するか？ 鶏卵

3月下旬からの入荷増が続き4月中旬以降の鶏卵相場は、kg当り160円を割る予想以上の安値となった。しかしこの相場は最低とみられ、5月に入ればゴールデンシーズンをひかえ消費も伸びようし、また産地が出荷を見合わせているところもあって入荷が減ることも考えられる。さらに農繁期に入ると卵は地場消費が多くなる。だがこれからの卵の生産は全国的な昨年の秋ビナの尻上りの好調からみて、昨年同期に比べ、15%程度の増加が見込まれるようで、昨年よりは下回る価格しか見込めないようである。

6月は例年産卵の減少からやや値上りをみせるが、供給増加見込みとともに、マヨネーズの原料手当買いが6月までとの見通しもあり、梅雨時の消費減退とともに6月末から7月にかけて再びかなりの安値に見舞われるとの見方が強い。

### まったく弱もちあい 食鶏

入荷減少の期待を裏切って、あいかわらず豊富な出回りであって、反対に売行きはまったく止まっている。2月から下げ相場になり、そのまま4月の終りにはkg当り150～160円を下がってしまった。これではブロイラー飼養農家は完全に赤字経営を続けていることになる。

5月中中旬以降になれば、入荷もある程度減少してくると見通されるが、それもあまり期待出来る状態ではない。それでも出回りは昨年同期より30～40%多く、オリンピック向けの冷蔵庫入れも、金融引きしめの影響であまり進んでいない。